山梨県柔道連盟だより

令和４年度
報　告

1　会長挨拶
2　少年部・中体連・高体連活動報告
3　山梨学院大柔道部
4　甲府工業高校を最後に定年退職
5　孝道塾寒稽古
6　富士学苑高校試合結果
7　表彰・ライセンス・指導員資格取得者
8　昇段者一覧
9　編集後記

東西対抗柔道大会開会山梨市武道館

鏡開き式講道館護身術演武（西田・関根組）

関東柔道選手権大会小瀬武道館

関東女子柔道選手権大会優勝髙橋瑠璃選手

講道館柔道の段位等

山梨県柔道連盟　会長　中嶌和久

古来武芸において、技術の上達、段階はその程度に応じて、目録・免許・皆伝の称号が用いられてきた。

指導上の「便宜」と「さらなる修業への奨励」のため工夫されたのが、講道館柔道の段位である。

初めて初段になったのが門人第１号である富田常次郎と小説「姿三四郎」のモデルとなった西郷四郎で、明治１６年８月である。

・黒帯について

有段者の証である黒帯は、明治２０年前後に使われるようになった。

制度ができた当初は、昇段者に対して口頭による言い渡し、または掲示版による伝達であった。

明治２７年５月に初めて「段証書」の授与が行われたと史実に残っており、この時、嘉納師範が作られた文面がそのまま今日まで用いられている。

その文面は簡潔ながらも示唆に富むものである。

初段・弐段・参段は

日本傳講道館柔道の修行に精力を盡し大に其の進歩を見たり
依って初段に列す向後益々研磨これあるべきものなり

四段・五段は

多年日本傳講道館柔道の修行に精力を盡し技精熟に至れり
依って四段に列す向後益々研磨し斯道において先達たるを期すべきものなり

※ 先達とは、その道ですぐれた者。先輩、案内する人の意味

六段以上の高段者には

多年日本傳講道館柔道の修行に精力を盡し技熟達に至れり
依って六段に列す向後益々研磨し他日斯道において師範たるを期すべきものなり

六段以上の高段者には初めて「師範」という二文字が入っており、将来修行者の模範となってくださいと示されるものである。

（ちなみに、六段から十段までの文面は全く同じ）

・講道館の四天王

○ 富田常次郎　七段

嘉納師範の門人第１号である。

講道館創設以前から終生師範を助けた最初の書生である。

○ 西郷四郎　六段

その得意技においては幾万の門下生が、未だその右に出る者なしと言われた「山嵐」。

姿三四郎のモデルとなった。（広島県尾道市で生涯を遂げる）

○ 横山作次郎　八段

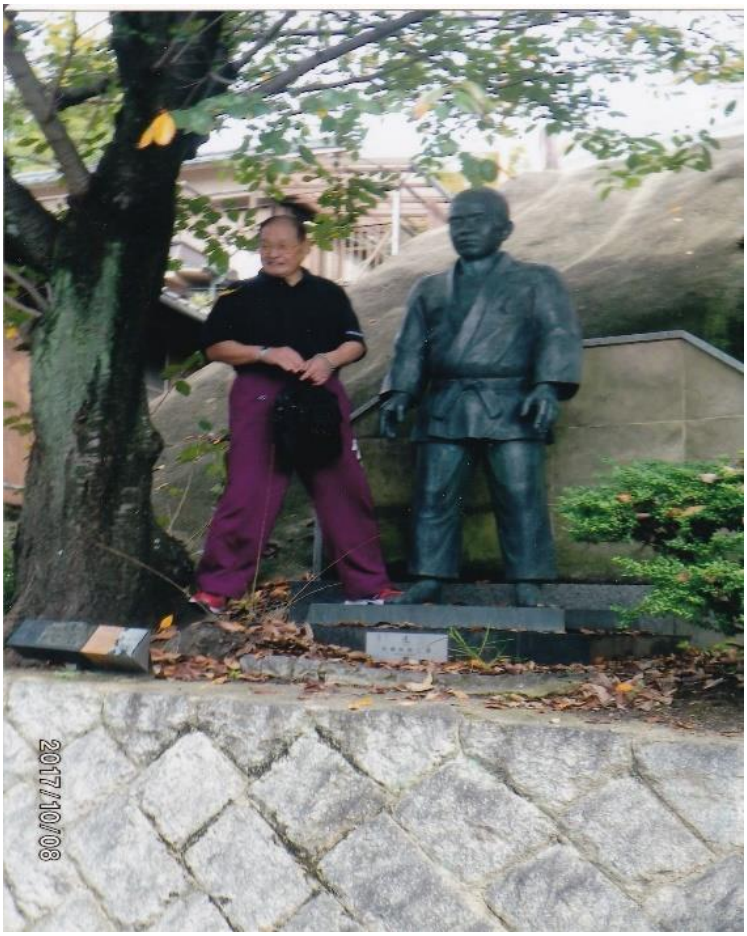
「鬼横山」の異名をとり、初期の講道館において道場での指導の中心となっていた。

○ 山下義韶　十段

初の十段に列せられた

アメリカのルーズベルト大統領に指導するなど、海外発展の先鞭を切った。

写真は愛媛国体応援に行く際、広島県尾道市に立ち寄って西郷四郎の銅像前で撮影したものです。



令和４年度関連事業を終えて

小中体連支部長　　酒井　健治

令和４年度もすべての大会においてコロナの感染を広げない安全安心の大会運営を県小中体連柔道専門部の知見部長はじめ、後藤委員長を中心に運営を進めてきました。運営マニュアルの遵守からはじまり、大会会場の感染対策、競技運営等に細心の注意を払い企画しました。関東・全国大会も同様でした。関東中学校柔道大会が千葉県、全国中学校大会が福島で開催されました。徹底したコロナ感染を念頭に置いての大会にでした。関東・全国大会ばかりでなく、すべての大会において感染を広げない安全安心を最優先で大会が開催されました。その成果もあり感染者や大きな事故なく大会を終えることができました。しかし、感染対策を万全にする一方で、全国的に柔道選手の練習機会や練習時間が減ったことは否定できません。そのことで、さらに柔道離れが進んでいるようにも感じます。山梨県でも中学１年生の入部率も低く、団体戦の出場校は２０校を割り、２０年前の半分となるさみしい状況です。

試合においては、女子の富士学苑中学の活躍が目立ちました。関東中学校の団体戦で３位に入賞しました。準決勝では、国士館中学校に１対２で惜しくも負けましたが、２年生の選手が多いので来年も期待できます。個人においては、同じく富士学苑中学校の勝又美涼選手が２年生ながら、関東大会２位、全国大会３位と大きな躍進を見せました。また、丹沢真奈美選手も関東大会に３位に入るなど活躍しました。勝又選手はまだ２年生なので、来年度の活躍が期待されます。関東大会全国大会の総括として、組手負け、寝技や指導による優勢負けをすることが多いです。全国の選手にも技術では対抗できる手応えは感じています。課題として勝負へのあと一歩の執念や指導を先にとられてしまう消極的な柔道が目につきます。また、腕力などフィジカルの差がそのまま試合に反映されていることがあります。その課題を克服するには、様々なタイプの選手と交流が必要です。柔道に触れる時間を増やし、柔道に対峙する機会を増やす事が重要なポイントになります。富士学苑の選手ばかりでなく、関東で戦える競技力の向上を目指したいです。

しかし、この３年は新型コロナ感染症対策のため、交流をはじめ柔道に取り組むことすらままならない状況です。指導者としては歯がゆい思いをしています。コロナ禍も収束する目途があるので、早く日常を取り戻したいです。県柔連に主催をいただいて関東近県の中学生の選手を招待する、中学生の強化練成大会を毎年１１月に開催しています。今年度は３年ぶりに開催ができました。大きな成果です。現在柔道を取り巻く課題は山積しています。指導者の減少、柔道部の減少や選手の激減、進路先での柔道の継続の問題など様々な問題に直面しています。特に、全国的に中学生の柔道人口が激減している状況にあります。山梨県でもその例にもれず、激減しています。少年部との連携をとりながら、中学校へ入

学しても柔道を続ける環境を整えることも強化の第一歩と考えています。また、県柔連を上げて若手の指導者の育成や加入を推進してほしいです。

　結びに、中嶌会長、米山理事長をはじめとする山梨県柔道連盟の先生方の、小中体連の活動に多大なるご支援に感謝と来年度へのご支援をお願いいたしまして、令和４年度の報告とさせていただきます。

中学生の強化練成大会
（小瀬武道館アリーナ）

≪ 令和４年度　県柔連だより ≫

少年部指導委員会

委員長　風間辰也

平素より、山梨県柔道連盟が開催する少年柔道大会に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

山梨県柔道連盟だよりの発行にあたり、少年部指導委員会から寄稿いたします。

今年度もコロナ感染対策を講じた上での大会運営ではありましたが、県柔連主催の小学生が参加する５つの大会を無事に開催でき有難く思っています。

まず、４月１７日にはコロナウイルス感染拡大のため３月に開催できなかった第 42 回全国少年柔道大会県予選会を開催しました。１５チームが参加し、決勝戦には孝道塾と玉穂ＪＳＳが勝ち上がり、激戦を制したのは孝道塾でありました。

（優勝した孝道塾）

（準優勝の玉穂ＪＳＳ）

５月２２日には、第 47 回県下少年柔道大会を開催し、１部 20 チーム、２部 14 チーム、３部 16 チーム、合計 50 チームの参加を得て、無観客試合ではありましたが熱戦が繰り広げられました。

優勝は１部が「孝道塾Ａ」、２部が「まるや接骨院」、３部が「紘道館」と、今年も富士五湖地区のチームが好成績を収めましたが、甲府地区の紘道館や悠信館の活躍も印象深いものでした。

６月１２日には、全日本小学生柔道育成プロジェクト 2022 の県予選会を開催しましたが、予選会開催時には全柔連から開催要項等が示されなかったため、6 年生は男女 3 階級づつの 6 階級、5 年生は男女 2 階級づつの 4 階級で実施しました。参加人数は 101 名と、例年と同規模の人数となりました。

セレオ甲府様から寄贈された高さ 50cm を超える優勝トロフィーと全国大会出場権を獲得するため、参加選手は一生懸命に戦ってくれました。

６年生の優勝選手

男子 65kg 超級	男子 65kg 級	男子 45kg 級
天野貴博	前田　隼	白須和総
女子 55kg 超級	女子 55kg 級	女子 45kg 級
山本　愛	小澤あい	塚田汐菜

５年生の優勝選手

男子 45kg 超級	男子 45kg 級
大木雄登	河西蒼歩
女子 40kg 超級	女子 40kg 級
久保田茉莉花	ﾊﾞﾁｽﾀｱﾘｰﾈ

８月２８日、待ち望んでいた全日本小学生柔道育成プロジェクトは、全柔連の方針で試合形式ではなく 6 年生だけのイベントに変更となり、男子は白須選手と天野選手、女子は塚田選手と山本選手の４名が参加しました。

内容は、柔道教室や講和、練習試合等を行ったとのことですが、参加した選手にとっては素晴らしい思い出になったことと信じています。

１１月２０日には第 26 回会長杯を開催しましたが、昨年より 15 名多い 423 名の参加を得る中、新型コロナ感染対策のため保護者も検温、健康記録表の提出を義務付け、有観客試合で行いました。
久しぶりの有観客での開催であったため、保護者にとっても思い出深い大会となり、選手も応援を受けながら試合ができ心も温まる大会だったのではないかと感じています。
会長杯では毎年、甲府中央ライオンズクラブ様から敢闘賞として柔道着のプレゼントを頂戴しており、今回も８着をプレゼントしていただきました。
柔道着のプレゼントをいただいた選手は、瀧口福之助（まるや）、宮澤結衣（玉穂）、中込俐乃（悠信館）、窪田杏奈（紘道館）、平井朱莉愛（初狩）、前田隼（孝道塾）、飯島優芽（石和中）、関戸心響（下吉田中）の８選手でありました。
この８選手には、甲府中央ライオンズクラブ様宛に柔道着をいただいた感謝の意を込めた作文を書いて貰い、過日、私が大会の結果と一緒に届けたところであります。
来年も、柔道着をプレゼントしていただけるような熱戦を期待しております。
３月１２日には、第 43 回全国少年柔道大会の県予選会を開催し、１６チームが参加する中、紘道館との激戦を制した北富士ＪＳＳが優勝しました。全国大会での活躍を祈っております。

（優勝した北富士ＪＳＳ）

（準優勝の紘道館）

この 10 年間、少年部指導委員会の運営に携わってきましたが、スポ少や道場の指導者、保護者の皆様のご理解ご協力により、なんとか無事に運営することができました。誠にありがとうございました。
私が大切にしてきたことは、まず選手の安全、次に選手と保護者全てに公平であることでした。
真面目に協力頂いている選手や保護者が損しないよう、気分を害さないよう細心の注意を払い努めて参りました。
公平さを期す余り失礼な言動が多々あったかと思いますが、お許しください。
これからも選手の安全と公平性を大切にして万事努めていきたいと考えております。
少年柔道選手を始め全ての柔道選手の安全と活躍を祈念し、少年部指導委員会からの寄稿といたします。

〔　令和４年度を振り返って　〕

高体連支部　平井　茂樹

今年度も高体連主催の各種大会・運営が滞りなく終えることができました。これも中嶌会長先生をはじめとする連盟の先生方、田代剛久部長先生以下専門部の先生方のご協力の賜物とこの場をお借りして深く感謝申し上げます

新型コロナ感染症の影響が本年度も続く中ではございますが、施設の条件等を鑑みて保護者の観戦緩和など徐々に通常の大会運営に戻りつつある状況です。

さて、今年度を振り返って、県内予選では団体において男子は東海大学付属甲府高校、女子は富士学苑高校がすべての大会で優勝しましたが、男子では日川高校と甲府工業が一進一退を繰り返し、実力伯仲となっています。また個人戦においては、日川高校が東海大学付属甲府高校の牙城を切り崩す活躍を見せてくれました。

6 月に千葉で行われた関東大会では、団体のみの開催でしたが東海大学付属甲府高校が 4 回戦、日川高校が 3 回戦まで進出しました。女子では富士学苑高校が地元の県立八千代高校を下し優勝しました。つづく愛媛県で行われたインターハイでは、男子団体で東海大学付属甲府高校が 3 回戦の作陽（岡山）に敗れはしたものの 5 位。女子団体では富士学苑高校が滋賀の比叡山高校を代表戦の上勝利し優勝を達成しました。女子の個人でも、78 kg級の川崎愛乃（富士学）、78 kg級の山本海蘭（富士学）が優勝などその他全国上位を収める好成績を多く残してくれました。。

また、後期の主な事業としては、新人大会、全国高校柔道選手権大会県予選ですが、特筆すべきは、男子の個人戦において、60 kg級、66 kg級で葛城統椰（日川）、河西光貴（日川）が全国大会切符を獲得。男子団体では、甲府工業高校が東海大学付属甲府高校に敗れはしたものの 0-2 と健闘を見せました。3 月には全国大会が日本武道館で開催されます。昨年度は女子団体で富士学苑高校が準優勝でしたので、今年度はどのような活躍をしてくれるか、また男子もインターハイの好調を東海大学付属甲府高校が持続できるかなど注目すべき点が多々あり、好成績が期待されます。

＜第 70 回関東高等学校柔道大会＞

男子団体　２回戦　日川　2－1　県立伊勢崎工業（群馬）　甲工　0－5　県立進修館（埼玉）
　　東海　5－0　東京学館（千葉）　身延　0－5　都立杉並工業（東京）
　　３回戦　日川　1－1（代表負）光明学園相模原（神奈川）東海　4－0　工学院（東京）
　　４回戦　東海　0－3　木更津総合（千葉）

女子団体　1 回戦　都留　0－3　県立多賀（茨城）　河口湖　0－3　東京学館浦安（千葉）
　　2 回戦　甲工　0－3　作新学院（栃木）　富士学　3－0　湘南学院（神奈川）
　　3 回戦　富士学　2－0　東海大付属浦安（千葉）
　　4 回戦　富士学　1－0　淑徳（東京）
　　準決勝　富士学　1－1（代表勝）　埼玉栄（埼玉）
　　決勝　富士学　2－1　県立八千代（千葉）

＜第７1 回全国高等学校総合体育大会柔道競技＞

男子個人

60 kg級　下平清哉（東海）２回戦敗退
66 kg級　楠拓海（東海）初戦敗退
73 kg級　寺沢龍之介（東海））初戦敗退
81 kg級　鳥山蓮（東海）初戦敗退
90 kg級　宇野沢秀仁（東海）初戦敗退
100 kg級　山口翔太郎（東海）3 回戦敗退
100 kg超　野村尚吾（東海））4 回戦敗退　5 位

男子団体
１回戦　東海　　3－0　佐久長聖（長野）
２回戦　東海　　2－1　名張（三重）
３回戦　東海　　0－4　作陽（岡山）
女子個人
　48 kg級　鈴木うみ（富士学）3 回戦敗退
　52 kg級　大久保藍　（富士学）準優勝
　57 kg級　竹中真琴　（富士学）5 位
　63 kg級　杉山凛　（富士学）3 回戦敗退
　70kg 級　齊藤咲花（富士学）　2 回戦敗退
　78 kg級　川崎愛乃　（富士学）優勝
　78 kg超　山本海蘭　（富士学）優勝
女子団体
2 回戦　富士学　3-0 高川学園（山口）
3 回戦　富士学　3-0 宮崎日大（宮崎）
4 回戦　富士学　3-0 東大阪大敬愛（大阪）
準決勝　富士学　2-1　淑徳（東京）
決勝　　富士学　0-0(代表勝)比叡山（滋賀）

＜第 45 回全国高等学校柔道選手権大会県予選＞
団体試合
　男子決定リーグ　　①東海甲府　②日川　　③甲府工業
　女子決定リーグ　　①富士学　　②甲府工業　③河口湖
個人試合
　男子 60kg 級　①葛城統椰（日川）②池谷（甲工）③松村（甲一）
　男子 66kg 級　①河西光貴（日川）②狐塚（東海）③高澤（甲工）
　男子 73kg 級　①寺沢龍之介（東海）②池谷（日川）③桐原（甲工）
　男子 81kg 級　①天野峻（東海）②渡邉（東海）③　大場（東海）
　男子無差別級　①山口翔太郎（東海）②中込（甲工）③　佐々木（東海）
　女子 48kg 級　①國井　創凰（富士学）②塚田（富士学）③大久保（甲工）
　女子 52kg 級　①大久保藍（富士学）
　女子 57kg 級　①加々見美羽（富士学）②中島（甲工）
　女子 63kg 級　①木下亜蓮（富士学）②横野（富士学）③　加々美（河口湖）
　女子無差別級　①小出穂香（富士学）

※写真は関東高等学校柔道大会

令和４年度の振り返り　【大学支部】

山梨学院大学柔道部監督　西田　泰悟

令和４年度、大学支部の結果報告をさせて頂きます。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら過ごした１年間でしたが、なんとか全ての大会を予定通り実施することができました。

まず、学生大会の団体戦においては男女ともに満足のいく結果を残す事ができませんでした。6 月に東京・日本武道館で行われた全日本学生柔道優勝大会では男子は初戦で専修大学に 1-2 で敗れ、女子もベスト 8 で環太平洋大学に 0-2 で敗れ上位進出はなりませんでした。また、10 月に兵庫県のベイコム総合体育館で開催された全日本学生柔道体重別団体優勝大会でも男女ともベスト 16 という結果に終わりました。団体戦においてコロナ禍における経験不足、準備不足を男女とも痛感させられた大会でした。

個人戦の結果におきましては 10 月に東京・日本武道館で開催された全日本学生柔道体重別選手権大会では 60kg 級で山科雄也が初優勝し、男子柔道部では 10 年ぶり 3 人目の学生チャンピオンが誕生し、飛躍の年となりました。女子におきましても 70kg 級で多田純菜が優勝して本大会 2 連覇を達成し、今後シニアの大会で戦う上で自信となる成績を出してくれました。

また、国際大会の活躍では女子 4 年生主将の髙橋瑠璃が、タシケントで開催された世界選手権大会団体日本代表に選出され優勝、女子 48kg 級の古賀若菜がカザフスタンで開催されたアジア選手権で優勝、イスラエルで開催されたワールドマスターズでは 2 位に入賞し 2023 年の世界柔道選手権大会日本代表に選出されました。古賀は世界選手権の結果次第では 2024 年のパリオリンピックで金メダル獲得という目標が近づいてくると思いますので、精一杯頑張ってほしいと思います。

以上、山梨学院大学柔道部の結果報告とさせて頂きます。最後になりますが、日頃より山梨学院大学柔道部にご声援とご協力を賜り、県関係者の皆様には深く御礼申し上げます。来年度も山梨県柔道連盟の発展に尽力できるよう、精一杯精進して参ります。

全日本学生柔道体重別大会 60kg 級優勝の山科雄也、3 位の秋山竜大、70kg 級優勝の多田純菜を囲んで指導者と記念撮影

甲府工業高校を最後に定年退職

甲府工業高校　顧問　近浦　研一

私事ですが、令和４年度末をもちまして、甲府工業高校を最後に定年退職いたしました。
３８年間、長いようで短かった教員生活でしたが、柔道に携わり多くの生徒に出会い、選手強化に関わってまいりました。伝統校４校での指導と最後の勤務校となった１７年間の甲府工業高校での思い出について振り返ってみたいと思います。

思い起こせば、私は昭和６１年のかいじ国体がご縁で、昭和６０年に山梨県の教員として採用され日川高校で第一歩を踏み出しました。当時、地元での国体を控え選手強化が本格化し、総合優勝を目指していました。週の大半を東京で稽古に専念できるようにご配慮いただき、週の前半を日川高校で勤務し、後半は大学や全日本の合宿、警視庁の稽古に参加するように、環境を整えていただきました。日川高校では山本洋祐先生（現日体大教授）と少年選手の強化と技術指導をしながら、ガムシャラに生徒と稽古したことを今でも思い出されます。当時、部員の中には川手謙吾先生（現石和柔道会）・渡辺将先生（現まるや）・丹澤一浩先生（現県教委）・酒井健弥先生（現淑徳高校教員）・酒井健治先生（現河口湖南中教員）・土屋好英先生（現米沢中央高校教員）が在籍していました。先輩教師やすばらしい部員に恵まれ、目標に向かって一丸となり充実した毎日を過ごした、この２年間は、私にとって生涯忘れることの出来ない貴重な経験となりました。

昭和６２～６３年は峡南高校にお世話になりました。赴任と同時に朝錬と午後の稽古を強制し、まだ若かった私は自身の試合に向けた減量もあり、生徒と組合いながら稽古で鍛えながら自らを追い込んでいました。練習環境が一変し生徒は大変だったのではないか、特に当時のキャプテンだった赤池久人君（現山梨県警察）は、部員との板挟みで辛い毎日を過ごしたのではないかと思います。

昭和６４（平成元年）～平成８年は身延高校にお世話になりました。異動してまずは選手勧誘にも乗り出し、翌年から生徒と寮生活をしながら関東大会・インターハイ・全国選手権大会を目指し選手強化に明け暮れました。平成３年インターハイ（静岡）と平成４年インターハイ（宮崎）には個人戦軽量級に古屋精一郎君（帝京大学）、個人戦重量級には石川忍君（東北福祉大学）が連続出場を果たしました。また、強化４年目で団体での出場も果たすことができました。平成７年島根インターハイに秋山悟君（現甲府工業コーチ）が個人戦の軽中級に出場し、平成７年度全国高等学校柔道選手権大会には団体戦・男子個人戦（無差別）は秋山悟君が出場しました。平成８年は山梨県で開催されたインターハイでは団体・個人に出場しました。団体戦では米山哲央君（現山梨県警察）を中心に地元の声援を受けながら戦いましたが予選リーグで敗退しました。個人戦

軽中級に出場した秋山悟君が予選リーグ２試合で一本勝ちし決勝トーナメント進出を果たし期待されましたが上位進出は叶いませんでした。身延高校での８年間は少人数ではありましたが、遠征のためにワゴン車を購入し他県の強豪校に出向き選手強化を図りました。また、生徒と寝食を共にして朝のトレーニング、時には夜遅くまで稽古をしたことが今でも脳裏に焼きついています。

平成９年～１５年は、再び日川高校で指導が始まりました。平成９年インターハイ（京都）に団体戦に出場しましたが予選リーグで敗退しました。個人戦軽中級に出場した幡野直也君（日体大－現整骨院）がベスト８進出を果たしました。平成１０年度の関東大会（山梨開催）では、日川高校は前橋商業（群馬）柔道部ともに関東大会４０回出場表彰を受けました。平成８年に安房（千葉）が４０回出場表彰を受けていましたので、改めて日川高校柔道部の歴史と伝統を知ることができました。地元開催の大会で期待されていましたが、試合が始まると選手は極度の緊張で動きは硬く、予選リーグの初戦で高崎（群馬）に０対１で敗れ、決勝トーナメント進出が難しくなりました。続く高崎（群馬）は市立船橋（千葉）に２対②の内容負けで、市立船橋戦の戦いに勝てば三つ巴の可能性を残していました。地元の声援と仲間を信じ開き直って戦った結果、市立船橋（千葉）に３対０で勝利し、得失点差でなんとか決勝トーナメント進出を果たすことができました。その後、国士舘（東京）には敗れましたが、試合後選手から多くのことを学ぶことができ、忘れることのできない思い出の大会となりました。平成１０年香川インターハイからは団体・個人共に予選リーグが廃止されトーナメントでの大会となりましたが上位進出とはなりませんでした。平成１２年には全国高等学校体育連盟柔道専門部の派遣で日米高校柔道国際交流事業（米国ワシントン州）に３週間の日程で参加させていただき、米国の高校教育の事情の視察や研修会、柔道の授業およびクラブ活動の指導実践を行う機会をいただき貴重な体験をさせていただきました。平成１４年インターハイ（茨城）には男子個人戦－８１㎏に奥脇敬太君（現山梨県警察）が出場、平成１４年全国高等学校柔道選手権大会女子個人戦７８㎏超級に山本志乃さん（広島大－広島県警）がベスト８進出を果たしました。平成１５年全国高等学校柔道選手権大会男子個人戦に奥脇敬太君が出場しました。同大会女子個人戦７８㎏超級に山本志乃さんが３位入賞を果たしました。１５年長崎インターハイには男子個人戦－９０㎏に奥脇敬太君が階級は違いますが連続出場果たしました。

平成１６年～１７年の２年間は、スポーツ健康課（体育協会）に所属し、スポーツ行政（国体派遣業務全般の仕事）を通して選手のサポートを行う仕事に就き、初めは慣れない中で戸惑いもありましたが、大会の競技運営に関することを知ることができ、その後大いに役立つこととなりました。

平成１８年には、令和４年の退職までの勤務となる甲府工業での指導が始まりました。着任した時はすでに４３歳となっていましたので、直ぐに男女の強化に着手し、参加した平成１９年関東大会（茨城）では１年生メンバーで出場し、渋谷教育学園（東京）

に代表戦で中村美里（世界選手権金メダル）に善戦し敗れましたが優秀校に選ばれました。平成２１年関東大会（栃木）では、女子個人戦－４８㎏級で三枝春風さん（山梨県立大学）が３位入賞しました。平成２１年度関東ジュニア柔道体重別選手権大会女子－５７㎏級で藤本みどりさん（山梨学院大－北関東綜合警備保障）が２位。初めて全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に出場しました。平成２１年度インターハイ（奈良）では団体・個人戦で男女アベック出場を果たしました。平成２２年度インターハイ（沖縄）では女子個人戦－７８㎏級で西田香穂さん（山梨学院大－ＪＲ東日本）がベスト８進出を果たしました。平成２３年関東大会（群馬）では、西田香穂さんが女子個人戦－７８㎏級で優勝を果たしました。平成２３年度関東ジュニア柔道体重別選手権大会女子－７８㎏級で西田香穂さんが優勝。平成２３年インターハイ（秋田）では、女子団体戦・個人戦に出場し、女子個人戦－７８㎏級で西田香穂さんが３位入賞を果たしました。しかし、優勝を目指していただけに悔いの残る大会となりました。平成２３年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会女子－７８㎏級で西田香穂さんが３位に入賞し、２０１２年ベルギー国際大会－７８㎏級に日本代表として出場し２位となりました。これまで１７年間で、インターハイ女子（個人戦）に１３名が出場し女子の活躍が目立ちました。甲府工業に着任した当初は工業高校のイメージを払拭し女子の選手の受け入れる環境を整えることに苦労しましたが、その苦労が実って短期間での強化に成功しました。一方で男子は、強豪ひしめく私立高校を相手に、関東大会男子団体の平成２７・３０・３１年でベスト１６進出を果たし、県立高校の意地を出してくれましが、それからの壁は大きく乗り越えることの難しさを痛感しました。令和元年には関東大会男子団体試合４０回出場の表彰を受けました。また、男子は１７年間で、インターハイ（個人戦）に１２名の選手が出場を果たしました。さらに、創立１００周年を契機に学校に貢献できるようにと考え、平成２９年県総体相撲競技に参加し柔道と相撲の二刀流で５３年ぶりに優勝することができました。その後、令和４年度はインターハイ（高知）・全国選抜大会（高知）に出場し、全国の強豪校の胸を借りることができました。甲府工業高校での１７年間は選手強化と専門委員長として、３期６年に渡る重責を任され、微力ではありましたが県高校柔道の競技力向上と普及に努めてきました。今日では男子は東海大付属甲府高校、女子では富士学苑高校の活躍は目を見張るものがあり、本県が強豪県に名乗りを上げ全国区となっています。

結びになりますが、私は小学校３年生で柔道に出会い、半世紀に渡り柔道漬けの毎日となりましたが、これは私にとって天職になったと感じています。また、常に伝統校での恵まれた環境で選手強化ができ関係各位に心から感謝しています。公立高校での制限のある中で微力ではありましたが少しは足跡を残すことができたことに安堵と感謝の気持ちでいっぱいです。高体連柔道専門部は、大会の存続だけでなく、少子化に伴う部員不足や重大事故の問題に直面しています。今後その責務は日を追うごとに多くなり、大きくなっていると思いますが、これからも高校の再任用教員として「柔道を通じた人

づくり」を目指し、引き続きお手伝いをさせていただきます。長い間、大変お世話になり、ありがとうございました。

第 13 回孝道塾合同寒稽古

富士五湖支部（富士吉田市）　孝道塾　渡邊易彦

令和 5 年 2 月 23 日（木）天皇誕生日　　石和清流館

コロナ禍により 3 年ぶりとなる合同寒稽古を行いました。「まだまだ気をつけないと」ということで、人数を制限するため、山梨県内は主に富士吉田市内の道場と、県外は普段合同練習を行っている道場に参加人数を絞ってお願いし、2 週間の検温表と体調不良の有無の提出、入場前の検温、手指消毒マスク装着を徹底し開催に臨みました。

朝 7 時 30 分に孝道塾ご父兄の協力のもと会場準備に取り掛かり、朝 9 時からの開会式に間に合うことが出来ました。

第一回から講師をお願いしている小川直也先生（元最年少世界チャンピオンで現在小川道場長）と協力し、午前中は準備運動、寝技打ち込み、立ち技打ち込み、寝技乱取りを行い体が十分に温まったところで、今回の特別講師、園田隆二先生（元世界チャンピオン、全日本女子監督であり、現在パーク２４女子監督）に背負投と背負落の講習をして頂いたのですが、さすがは世界一の選手を抱えるチーム監督！幼稚園児から中学 3 年生までの年齢層の幅広い子供たちを、学年で 3 つに分けて難易度の違う講習をして頂きました。基本から、崩してからの入りまでの一連の講習を指導者も録画しながら勉強しました。

午後の部は、学年ごとに交代しながらの立ち技乱取りを行い、最後は試合形式の稽古を行いました。みんな気合が入りかなりエキサイティングな光景も見うけられました。

また毎年寒稽古の閉会式では強い弱いとは関係なく、気合の入った選手を各チーム一名、表彰しています。

3 年ぶりとなった合同寒稽古。孝道塾ご父兄を始め石和柔道会、および各道場指導者のご協力により大きなけがやトラブルもなく無事終えることが出来ました。感謝申し上げます。

小川直也先生直接指導

小川直也先生と東京都・神奈川県・山梨県などの子供達と

令和 4 年度　富士学苑柔道部結果報告

富士学苑柔道部監督　矢嵜　雄大

令和 4 年度富士学苑柔道部結果報告をさせて頂きます。
6/4.5 に千葉県成田市で開催された関東高等学校柔道大会では女子団体戦で接戦を勝ち上がり優勝することができました。
7/21~23 に福岡県博多市で開催された金鷲旗高等学校柔道大会では比叡山高等学校との決勝戦を 1 人残しで勝利し優勝、連覇を達成することができました。
8/8~10 に愛媛県で開催されたインターハイ柔道競技では個人戦で 2 階級、女子団体戦で優勝することができました。女子団体戦決勝では金鷲旗大会決勝戦で戦った比叡山高等学校学校との死闘を制し優勝することができました。代表戦では主将の山本の内股が決まり会場を沸かせました。
個人戦での 2 階級制覇も富士学苑にとっては初のことです。
12/18 静岡県で開催された黒潮旗高等学校柔道大会優勝。
2/19 埼玉県で開催された朱雀杯選抜高等学校柔道大会優勝。
3/20.21 に東京都で開催された全国高等学校柔道選手権大会では女子個人戦無差別級で 1 年の小出穂香が第 3 位に入賞することができました。女子団体戦では優勝した柳ヶ浦高等学校との初戦に敗退という悔しい結果でした。
以上、主だった大会の結果報告をさせて頂きました。関係者の方々、応援ありがとうございました。

＜第 70 回関東高等学校柔道大会＞

3 回戦　　富士学　2－0　東海大付属浦安（千葉）
4 回戦　　富士学　1－0　淑徳（東京）
準決勝　　富士学　1－1（代表勝）　埼玉栄（埼玉）
決　勝　　富士学　2－1　県立八千代（千葉）

<金鷲旗高等学校柔道大会>
女子団体戦　優勝
決勝戦
富士学苑　1 人残し　比叡山

＜第 7 1 回全国高等学校総合体育大会柔道競技＞
女子個人
48 ㎏級　鈴木うみ（富士学）3 回戦敗退
52 ㎏級　大久保藍　（富士学）準優勝
57 ㎏級　竹中真琴　（富士学）5 位
63 ㎏級　杉山凛　（富士学）3 回戦敗退
70kg 級　齊藤咲花（富士学）　2 回戦敗退
78 ㎏級　川崎愛乃　（富士学）優勝
78 ㎏超　山本海蘭　（富士学）優勝

女子団体
2 回戦　富士学　3−0 高川学園（山口）
3 回戦　富士学　3−0 宮崎日大（宮崎）
4 回戦　富士学　3−0 東大阪大敬愛（大阪）
準決勝　富士学　2−1　淑徳（東京）
決勝　　富士学　0−0(代表勝)比叡山（滋賀）

<黒潮旗高等学校柔道大会>
決勝戦
富士学苑　2-0 比叡山

<朱雀杯選抜高等学校柔道大会>
女子団体戦優勝
決勝戦
富士学苑　①-1 桐蔭学園

＜第 45 回全国高等学校柔道選手権大会＞
女子団体試合
富士学苑 0-2 柳ヶ浦
女子 48kg 級　國井創凰（富士学）2 回戦敗退
女子 57kg 級　加々見美羽（富士学）初戦敗退
女子 63kg 級　木下亜蓮（富士学）3 回戦敗退
女子無差別級　小出穂香（富士学）3 位

第 70 回関東高等学校柔道大会女子団体優勝

金鷲旗女子団体優勝

インターハイ 78kg 超級優勝山本海蘭選手・78ｋｇ級優勝川崎愛乃選手

黒潮旗高等学校柔道大会

朱雀杯選抜高等学校柔道大会優勝

第 45 回全国高等学校柔道選手権大会女子団体メンバー　無差別級 3 位小出穂香選手

令和４年度県柔連体育功労者受賞者･審判ライセンス合格者

指導員資格取得者

〇体育功労者賞受賞者

・飯塚　雄之（執行部・会計部長）

・戸島　礼子（女子会支部長）

〇審判員ライセンス試験合格者

・A ライセンス

木内　政孝（大学支部）

・B ライセンス

芦澤　尚秀（甲府支部）

染矢　晋太郎（小中体連支部）

関根　健寿（大学支部）

・C ライセンス

三浦　洋平（甲斐支部）

深澤　宏道（甲斐支部）

辻　翔（山梨支部）

大橋　慎弥（疾風道場）

王　大地（高体連支部）

〇指導員資格取得者

・Ｂ指導員

小佐野　　司（富士五湖支部）

小佐野　絵梨子（富士五湖支部）

成瀬　康史（警察支部）

髙田　友樹（警察支部）

小林　勇介（刑務所支部）

早川　貴司（身延支部）

・Ｃ指導員

戸島　礼子（女子会支部）

宮澤　　雄（警察支部）

市園　光一（警察支部）

幡野　哲也（警察支部）

石岡　裕樹（警察支部）
大橋　慎弥（甲府支部）
山下　　貢　（甲府支部）
洲﨑　悠実（大学支部：学生）
中野　仁理（大学支部：学生）
福田　真子（大学支部：学生）
打越　友紀乃（大学支部：学生）
渡邉　彩香（大学支部：学生）
横内　晋介（高体連支部）

・準指導員

藤原　卓己（山梨市支部）

新年懇親会・体育功労者受賞祝賀会（飯塚雄之様・戸島礼子様）
（前列左から 2 番目戸島礼子様 3 番目飯塚雄之様）

本年 1 月 8 日鏡開き式終了後岡島ローヤル会館ロイヤルルームにて岡島閉店前の最後の宴会を開催。

県柔連は約 30 年以上この場所を使用して懇親会･祝賀会を実施しましたので、今回ローヤル会館の支配人に御礼の花束を送りました。

令和４年度　山梨県柔道連盟会長賞名簿（高校生）

No	氏名	段	学校名
1	磯貝　大地	初	東海大学付属甲府高等学校
2	野村　　尚吾	初	東海大学付属甲府高等学校
3	下平　　清哉	初	東海大学付属甲府高等学校
4	市川　　万貴	初	甲府工業高等学校
5	小佐野　　貴登	初	日川高等学校
6	橋本　　龍也	初	身延高等学校
7	山本 海蘭	弐	富士学苑高等学校
8	川崎 愛乃	弐	富士学苑高等学校
9	杉山　　凛	弐	富士学苑高等学校
10	竹中　　真琴	初	富士学苑高等学校
11	小俣　柚花	初	都留高等学校

令和４年度昇段者一覧

八段　　藤崎　一宜（執行部・副会長）
七段　　河野　雄一（執行部・事務局長）
六段　　藤本　和幸（大月支部）　西田　泰悟（大学支部）
※五段以下は次の通り（令和３年４月～令和４年２月）
五段　　渡邊　浩司　熊谷　秀洋　成瀬　康史　関根　健寿
四段　　佐藤日出夫　横内　晋介　髙田　友樹　市園　光一　宮澤　　雄
三段　　葛西　勇希　三塚　拓真　藤本　蔵将　河本　侑大　林　大地　瓦本　光志
　　滝本　大和　深田　義英　孫　　俊峰
女子三段　桂原　幸世　古賀　若菜　古里幸永羽　中野　仁理　押領司万絢　山本　景偉
　　矢澤　恭夏　渡邉　彩香　櫻井　未稀
二段　　池田　公一　大森　梨玖　金井　賢治　水上　瑞樹　宇野澤秀仁　落合　翼
　　丸山　春希　楠　　拓海　下平　清哉　野村　尚吾　大林　直樹
女子二段　石坂　奈未　小原　才佳　瀬戸　美咲　伊藤　有美　宮井　杏　　戸島　礼子
初段　　豊嶋　信希　志賀　龍樹　天野　雄策　萱沼　隼風　川村　英二　磯部　啓太
　　大澤　悠良　梶原　煌介　崔　世賢　中込　帆稀　宮下　翔　　武藤　希旺
　　池田　健　　池田　壮介　相澤　十輝　池谷　　健　窪田　優真　秋鹿　竜童
　　流石　青　　萱沼　優斗　帯金　秀弥　加々美維吹　川口　久輝　中村　智希
　　山本樹稀也　橘田　航清　小林　友一　平井　琉聖　長田　十偉　永田　陽己
　　松野　友哉　芹澤　速人　飯塚　雄葵　横瀬　里有　近藤　悠　　宮川　侑大
　　窪田　拓　　内田瑛一郎　飯島　龍一　深澤　宏道　滝口　晃生　岡田　悠輝
　　西本　晃優　宮本　凛紳　望月　悠貴　磯部　永人　内田幸太郎　清水　雅翔
　　保坂　愛斗　末木　是吉　大森　悠音　三枝　透陽
女子初段　渡邊　雅子　中田　心子　小佐野愛梨　近藤　桜子　中込　侑奈　渡邊　昌子
　　市川　夢珂　鶴田　未来　立川　琴彩　萩原　友恵　奥脇　莉南　野口　和純
　　大澤　樹莉　横内優宇架　宮下　愛結　小原　三和　山寺　紗世　小林　希帆
　　窪田　一葉　大林　結音

令和４年度　山梨県柔道連盟会長賞名簿

No	氏名	段	学校名
1	磯貝　大地	初	東海大学付属甲府高等学校
2	野村　尚吾	初	東海大学付属甲府高等学校
3	下平　清哉	初	東海大学付属甲府高等学校
4	市川　万貴	初	甲府工業高等学校
5	小佐野　貴登	初	日川高等学校
6	橋本　龍也	初	身延高等学校
7	山本 海蘭	弐	富士学苑高等学校
8	川崎 愛乃	弐	富士学苑高等学校
9	杉山　凛	弐	富士学苑高等学校
10	竹中　真琴	初	富士学苑高等学校
11	小俣　柚花	初	都留高等学校

～編集後記～

本県柔連だより第９号をお届けします。

令和元年２月から３年間新型コロナウイルス感染症蔓延のため、県柔連は本年度も４月から諸行事の一部を延期・縮小し事業を実施しました。

月次審査は、小瀬武道館の入場規制により、一部の級のみ実施、他は書面審査としました。また、後半には小瀬武道館の改修工事で、場所を転々と変えて行いました。

形講習会は、小瀬武道館のアリーナで畳を敷いて１日のみ実施しました。畳の設営受講生ありがとうございました。

昇段推薦は、ほぼ通年ベースの昇段推薦ができました。公認指導者資格取得者の資格講習及び更新講習会はオンデマンド方式で実施、B 指導員の実技は山梨学院大学樹徳館をお借りして実施できました。昇段、形及び指導者資格担当の関係役員のご尽力に感謝申し上げます。

コロナ禍により県柔連だよりも今年度は、何とか発行できました。原稿のご協力を頂ました皆様に感謝申し上げます。

今年３月 19 日（日）小瀬武道館で「令和５年関東柔道選手権大会兼全日本柔道選手権大会関東地区予選（男・女）」を新型コロナウイルス感染対策の中、観客の人数制限を行い、アルコール消毒液設置、非接触型体温計を用意、役員、選手、監督、コーチ、帯同選手には、マスク着用の義務付けなど行い開催しました。本大会において、髙橋瑠璃選手四段（山学大）が見事２連覇し全日本女子柔道選手権大会の出場を決めました。

これから、皇后杯全日本女子柔道選手権大会が４月 23 日（横浜武道館）開催されます。１年後のパリオリンピック代表選手を目指して、夢の舞台進出に髙橋選手の活躍を心より応援しております。

追伸：関東柔道連合会関係

令和３年度４年度は、中嶌会長が関東柔道連合会の会長に就任し、事務局長に私、事務局次長に岡田一博様、会計部長に風間辰也様で関東の事務事業を執行して参りました。中でも様々な取り決めが理事（関東各県会長７名）の先生方の申し送りのみで、規約も諸規程も改正も制定もせず山梨県に事務が回ってきました。

そこで、山梨で関東の取り決めを明文化するため何度も事務局で話し合い、昨年５月の定時総会において規約改正及び規程の制定など行い透明感のある関東柔道連合会となりました。規約改正、新規程制定では大分苦労しましたが、この事務を執ったことは、関東各県会長達が最終的には喜んでおりました。令和５年度定時総会が５月７日に開会しますが、最後の大役を無事終了できるよう中嶌会長と事務局３名で細部まで十分協議検討し、総会に臨みたいと考えております。なお、関東柔道連合会の事業がほぼコロナ禍でありましたが、令和４年度は全て執行したことで、県の事業に中嶌会長が出席できない場面も多かったことにこの事情をご理解いただきたいと思い記述しました。

令和５年度も県柔連の事業が円滑に執行できるよう関係各位のご支援ご協力をお願いします。

（県柔連副会長・理事長・広報普及委員会委員長　米山徳彦）

発行者：山梨県柔道連盟　広報普及委員会
委員長　米山徳彦　副委員長　望月光喜　委　員　川口喜彦
河野雄一　渡辺直也

（敬称略）

寄稿者：山梨県柔道連盟会長　中嶌和久
寄稿者：少年部指導委員会委員長・執行部副理事長　風間辰也
寄稿者：小中体連柔道専門部委員長　酒井健治
寄稿者：高体連柔道専門部委員長　平井茂樹
寄稿者：山梨学院大柔道部監督　西田泰悟
寄稿者：甲府工業高校柔道部監督　近浦研一
寄稿者：富士学苑高校柔道部結果報告　矢嵜雄大
寄稿者：孝道塾代表　渡邊易彦

発効日：2023/04/02（第９号）

本年１月８日竜王武道館において鏡開き式前　中嶌会長を囲んで執行部の皆さんです。